

卒業生に聞く！

ボランティアから つながる一歩

- 卒業生が語る未来の話 -

話し手：神保 彩乃さん（2019年度 卒業生）

聴き手：齋藤 元気（ボランティアコーディネーター）

2021年 4月22日(木)

報告

■ 卒業生が学生時代を振り返る！

4月22日、30日の二日間、学生時代に「都立大ボランティアプログラム」や「学生コーディネーター」といったボランティアセンターが運営する活動をはじめ、学内外の多種多様なボランティア活動に参加してきた卒業生二人をお招きし、「ボランティアからつながる一歩-卒業生が語る未来の話-」をオンラインで開催しました。

14名にご参加いただいた22日（木）の第一回では、ゲストの神保彩乃さんから、学生時代にボランティア活動を通して得た経験や気づき、さらに、現在社会人として活躍されている立場から、学生時代のボランティア活動経験が現在のキャリアに、どのように活かされているのかについて、様々なエピソードとともにお聞きしました。

■ 第一回：神保 彩乃（じんぼう あやの）さん

2019年度 卒業生：都市教養学部 都市教養学科 経営学系
現在の職業：福祉サービス企業のコンプライアンス業務

学生時代は、東京都障害者スポーツ大会などの運営ボランティアやスポーツを通じた地域交流に取り組む。
その他、路上生活者支援や台風で被災した地域での災害ボランティア活動などを幅広く経験。都立大ボラセンの学生コーディネーターとしても活躍した。

質問

自己紹介をお願いします！

みなさんこんにちは、神保と申します。
私は2019年度の卒業生なので、首都大学東京のラストの時代ですね。その年に経営学系を卒業しました。



現在は高齢者福祉サービスを行っている株式会社で本社の事務職として働いております。コンプライアンス室というところに所属していて、全国にデイサービスとか有料老人ホームというような事業所がたくさんある会社に勤めているので、その事業所一つひとつが法令を守って適正に運営できているのかというようなことを確認する役割を担っています。

質問

ボランティア活動を始めようと思ったきっかけのようなものはありましたか？

私は大学生の頃からボランティア活動を始めたのですが、少し遡って

ボランティアって何？
どんなことをするの？

ボランティア活動の魅力って？
自分の将来にどう活かされるの？

卒業生に聞く！

ボランティアからつながる一歩

-卒業生が語る未来の話-

開催日：04.22/04.30 昼休み (12:10-12:50)

会場：オンライン (Zoomミーティング)

DAY1

4.22

ゲスト
神保 彩乃さん

2019年度 卒業生
都市教養学部 都市教養学科 経営学系

現在の職業：
福祉サービス企業のコンプライアンス業務

学生時代は、東京都障害者スポーツ大会などのボランティアやスポーツを通じた地域交流に取り組む。その他、路上生活者支援や台風で被災した地域での災害ボランティア活動などを幅広く経験。都立大ボラセンの学生コーディネーターとしても活躍した。

高校3年生の時、出身地である栃木県宇都宮市の自分の住んでいる地域の近くで豪雨災害の被害がありました。被害の様子が連日ニュースで報道されている中で、学生がボランティア活動をしている様子もニュースで映し出されたんですね。それが私はすごく衝撃的でして、学生がボランティアをするという選択肢があるんだということに、その映像を見て一番驚きました。

そこからずっとボランティア活動してみたいなと考えながら、2016年に進学をして、その年に本当に、運命的か分からないんですけども、当時の首都大にボランティアセンターが設立されました。そのニュースが私の耳に入った時もこれは本当に運命だなと思って、もういってしまえば私のためにこのボラセンが設立されたんだって勘違いをするほど魅力を感じて、もう大学に行ったらボラセンに足を運んで、「何でもいいのでボランティアさせてください、やりたいです」とお話ししたのが、まず最初のきっかけだったかなと思います。

質問



4年間取り組んだ
ボランティア活動の中で
自分のターニングポイントに
なった活動はありましたか？

今パッと浮かんだのは、すごくいい意味でも悪い意味でも私のターニングポイントになった活動の現場でして、先ほども路上生活者支援の活動に携わっていたと話したのですが、その活動をしているある日ですね、路上に住まれている方のおうちに一枚の張り紙が貼ってあったんですね。なんて書いてあるんだろうって見てみると「この場所は〇月〇日までマラソン大会で使うので移動してください。ここにはいられません」という趣旨の張り紙だったんですね。そこで私にはモヤモヤポイントが二つ出てきました。

一つ目が、「こういうふうに簡単に路上に住まれている方の暮らしが奪われてしまう可能性ってあるんだな」ということ、さらにもっとガツンときた二つ目のモヤモヤが、その張り紙に書いてあったマラソン大会に私はボランティアとして参加をする予定だったということです。すごく何とも言えない感情を抱いたのを今でも覚えてます。私はその二つの活動どちらも大好きなんです。マラソン大会も大好きだし、路上生活者支援の活動ももちろん大好きだし、どちらも関わり続けていたのに、この二つの活動がなんかお互いに相手を認められていないというか、そういう不思議な関係性をその現場で目撃して、やっぱり今社会が複雑に絡み合っている中で、いろんなことを知らないってすごく怖いことだなと思った経験でした。

ふと出た言葉が誰かを傷つけてしまっていたりとか、あることをやろうと思っていても反対側とか陰に潜んでいるもう一つのことに見向きができていなかったらそれを蔑ろにしてしまったりする可能性ってたくさんあるんだろうなと思ったことがきっかけで、とりえず今の段

階では知らないことが多すぎるから、いろんな社会を知っている人々と話そうと思うようになりました。

それが2年生の冬だったのですが、それからまたさらにボランティア活動にのめり込むようになっていって、活動分野を定めず広くやっていくことでいろんな人に会って、年齢等も特に気にせず、いろんな人と話せる活動に参加するようになったことが大きかったと思います。

良い意味でも悪い意味でも、私はその二つの矛盾みたいところに何もアプローチできなかったの、自分の力不足をとて感じたのですが、「それを知っている人間ではずっという、矛盾していることがあるかもしれないということをずっと頭に留めておける人間になろう」と思ったきっかけでもありました。その張り紙1枚の目撃シーンだけだったのですが、印象に残っています。

大きなスポーツの大会と路上生活者の生活が重なって、さらにそこに自分の生活も重なっていったんですね。今までももしかしたらそこに距離を置いていたり、見えていなかったり、自分の生活が重ならなかったから考えられなかったりしたのかもしれませんが、そこで考えただけじゃなくて、自分のその後の生活への関わりを創っていったということがすごく大きいですね。

質問

ボランティア活動の経験は卒業後のキャリアの中で、どのように生きていますか？

経営学系の学生だった私は3年生から、ヒューマンリソースマネジメントという、ざっくり言うと「人が働くってどういうこと」とか「人がやりがいをもって働くにはどうしたらいいんだろう」みたいなことをテーマとして扱うゼミに所属していました。そのおかげもあり、人が働くということに漠然と大きな関心がありました。そのゼミの活動をボランティア活動と並行して進めていたのですが、ボランティア活動をしているある日、障がい者施設との出会いがありました。そこで働いている方、その方は障がいのある方をサポートする役割で働いている方だったのですが、ボランティアの私に「こういう場所があるっていうことを、こういう仕事があるっていうことを知ってもらえるだけでも嬉しいんだ」とすごく複雑そうな顔をしてお話しされるんですね。その言葉を聞いた瞬間に素直に「なんでこういう言葉が出てくるんだろう」と思いました。でもよく考えてみると福祉現場で働いている方って大切な仕事をされているのにあまり認知されていない部分があるんだろうなと思いましたし、つらいんでしょうとか、給料が低いんでしょうとか、きついんでしょうとか、大変な部分だけ目立っている気がするなど、その方の言葉を聞いて思ったんです。

私はそのボランティア経験から、じゃあそういう人たちをサポートできる仕事に何か就けないかなと考えるようになりました。そこが私の職業を決めるきっかけになった一番の出来事でした。

さらに、自分が進んで行こうという道を決めた後に考えたことがありました。それは、福祉サービスをしているところがたくさんある中で、「どういう形態で働こう」「どういう分野で働こう」「どういう立場で働こう」というポイント、この三つです。

一つ目の「どういう形態で働こう」についてですが、福祉サービスは株式会社でやっているところもあれば、NPO（法人）や社会福祉法人としてやっているところもあります。その中で自分は株式会社を選んだのですが、自分が関わったことがなかったということももちろん、サービスとして利益を求めて取り組むことでお客さんに高品質なサービスが届けられる、働いている人たちにも働いた分の還元ができる、それはどこだろうって考えたときに、株式会社の方が強いのかなと思った、そのことがきっかけになったと思います。

その後、株式会社の福祉サービス系の分野で、一番発展し、一番社会的に認知されているのはどこなんだろうと考えた時に、私はそこは高齢者分野だなと思ったので、そこに絞って職業を探することにしました。

また、そこに関わる立場としては、私はずっと人が働くということに興味があったのでそこだけはずっとブレずに、自分が実際にお客さんに対してケアをするというわけではなく、「そのケアをしている働いている人のサポートができる立場になろう」と考えました。

現在、本社総合職で働いているので、現場から一歩離れた場所で現場をバックアップする、サポートする立場としての仕事につながっていると思います。私は自分の専門分野を通して「人が働くってどういうことなんだろう」ということをずっと考えていて、そこにボランティアの経験とか、ボランティアで出会った人たちの声とかいろいろ繋がって、重なって、自分が歩いて行こうかなって思える道が決まっていたなと思います。私は本当にボランティアが色々私の人生に対してもつながっているなと感じていますね。

質問

学生時代は日常生活の中にボランティア活動があふれていて、それが当たり前になっていたと思いますが、社会人になってから、仕事以外の日常生活の部分での変化はありましたか？

今2年目で、仕事にも慣れてきて

自分の自由な時間もつくれるように

なっているのですが、そこでの実体験が最近ありましたので、それ共有したいと思います。

2年目になって、もう少し自分が住んでいる地域とつながりたいなとやっぱり思ったんですね。そこで、私の住んでいる地域の近くに商店街があるので、色々つながりをもっていろんな活動することができないかなと、去年の12月頃から構想を練っていました。商店街に電話もして連絡をとろうとしてみたのですが、なかなかつながらず、結局お話をできるかなっていう目途がなかったのが、来月の5月頃になってしまいました。

自分が活動をしたいという思いをもってアクションを起こしているのに、活動先に繋がるまでに半年間もかけることになってしまったんですね。それって私は大学生時代だったらありえなかったなと思います。というのも、いろんなつながりをもっている大学ボラセンが私の近くにあって、そこにいつでも通える体制があって、その職員さんに相談すれば「こうした方がいいんじゃない」というアドバイスももらえる。そういう体制が整っているからこそ、先ほど話した小学校でのスポーツ体験会のように、もっと短期間で半年なんてかずに構想がまとまっていたのかなと思います。そう考えると、やっぱり社会人として、一市民として地域とつながる、地域の団体とつながることって結構ハードルが高いんだなと、実体験を通して感じています。

なので大学にボランティアセンターがあったり、相談できる人がいたり、また大学の先生にはいろんなつながりをもっている人が多かったりすると思うので、自分の味方になってくれる人を増やせるっていうのは、学生時代の方がやっぱり強かったのかな、そこは学生ならではの力だったのかなと、今社会人になって、地域とつながろうとしている一市民として、難しさとともに強く感じています。

参加者の声（一部）

- ・実際のエピソードを交えて話してくれたおかげで、すごくボランティアに興味をわいた
- ・ボランティアの経験を重ねるなかで、何を考え、どのように選択をしていったかを具体的に聞くことができた
- ・「ボランティアを体験で終わらせず、経験として活かしていく」という神保さんの言葉。自身の活動を振り返ったときに、胸に留めておこうと思える言葉だった。



都立大ボラセンYouTubeチャンネルにて
当日の様子を公開中!

